

令和7年度 広島・愛媛交流会議

- 日 時 : 令和7年7月28日(月) 13:20～14:30
- 会 場 : ハイヅカ湖畔の森(三次市三良坂町仁賀563)
- 出席者 :
 - 【行政】 愛媛県知事 中村時広、広島県知事 湯崎英彦
 - 【経済界】 愛媛県商工会議所連合会会頭 高橋祐二、
広島県商工会議所連合会会頭 池田晃治
- 意見交換:
 - (1) 広域観光連携の推進について
 - (2) 食のブランド化の推進について
 - (3) 官民共創によるスタートアップ支援について

開 会

内藤審議官: それでは定刻になりましたので、ただいまから、「令和7年度広島・愛媛交流会議」を開催いたします。

私は、本日の会議の進行役を務めさせていただきます広島県経営戦略審議官の内藤でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

机の上に2つほどお菓子を置いておりますが、まずカステラですが、この会議の開催地でもあります三次市三良坂町で、昭和34年から和洋菓子を作り続けておられる泉屋さんの霧里ワインカステラでございます。ホワイトチョコの甘さと、三次特産のワインの風味が口いっぱい広がるお菓子となっておりますので、ぜひご賞味いただければと思います。

次にかしわ餅ですが、三次市で育ったもち米「ひめのもち」を使い皮にし、北海道産の小豆を使用した自家製の餡をたっぷりと包み込んだ、泉屋さんの1番人気の和菓子で、多い日には1日で2,000個ほどを売り上げるそうでございます。こちらはお持ち帰りください。

本日の会議の終了時刻は14時30分を予定しております。円滑な会議の進行に御協力をお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、開催県の湯崎広島県知事から、ご挨拶を申し上げます。

開会挨拶

湯崎知事: 本日は皆様大変お忙しい中、中村知事、それから両県の経済界から、高橋会頭、池田会頭に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ここ三次市、開催地でございますけれども、中国地方のほぼ真ん中にあるというところでございます。江戸時代には、島根県の石見銀山、こちらから銀が通ってくるという銀山街道というものがございましたけれども、それを含めて色々な街道が交差をするというところですし、江の川、馬洗川、西城川の3つが合流するということで、船運の非常に重要な地域でございました。そういう意味で、文化・経済・交通の要衝として栄えまして、今でも中国自動車道と尾道松江線が交わる、そういった場所になっております。山陰と山陽・四国が繋がっているということでございます。

また、本日の視察でもご体感いただけたのではないかと思います。大変豊かな自然条件がございまして、それを活かした米づくりや、野菜とか果樹、チーズ、こういったものの生産が大変盛んな地域でもございまして、特に少し標高の高いところもございまして、昼夜の寒暖差が大きくて、ぶどうを生産しているというところがございます。

「黒い真珠」としてピオーネが全国的にも有名ですし、三良坂町では「瞳の輝き」という名前でピオーネが生産されています。

ぶどうづくりには、発芽した芽の大きさを概ね一定に揃えるように芽を欠く芽欠きや、一房あたりの粒の数を調整する摘粒という作業、それから袋かけ、こういった色々な多くの作業がございまして、高品質のぶどうを作るためには、非常に丁寧に細やかな作業が必要となっております。

平成5年度から始まりましたこの会議、今回で30回目を迎えるところでございます。

この会議を通して、愛媛県や経済界の皆様と1つひとつのテーマに対しまして、ぶどうづくりのように丁寧に細やかな議論を積み重ねてまいりまして、これまでも、しまなみ海道自転車通行料金の無料化やドクターヘリの広域連携といった大きな成果を生んできたと思っております。

本日は、観光や食のブランド化、スタートアップ支援をテーマに、交流や連携について議論をさせていただく予定としております。

今回も丁寧な議論を積み重ねまして、今後の両県の発展に向けて連携して進んでまいりたいと考えております。

最後に、本日の会議が実り多きものとなるようお祈りを申し上げまして開会の挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

意見交換

(1) 広域観光連携の推進について

内藤審議官： 続きまして早速ですけれども意見交換に入らせていただきたいと思います。
意見交換につきましては、湯崎知事に進行役をお願いいたします。

湯崎知事： それでは早速議題に入りたいと思います。

最初の議題は、広域観光連携の推進についてということで、こちらは私の方から発言をさせていただきたいと思います。

まず去年は、「サイクリングしまなみ2024」を両県で連携して無事に開催することができまして、海外からの誘客にも両県で取り組んだところ、国内在住者も含めますが、海外からの参加割合は約14%と過去最大となりました。世界に誇るしまなみ海道の様々な魅力を国内外に発信できたと考えております。

先ほだ少しご紹介しましたが、経済界の皆様とサイクリングに行ったときも、出会うサイクリストの8割くらいが海外のお客さんだったというように、非常に浸透してきたのかなと思っております。

そういう中で、本県の宿泊者数は、外国人宿泊者数が大幅に伸びておりまして、令和6年は約1,217万人泊となりまして、過去最高となっております。また、しまなみ海道での外国人のレンタサイクル利用台数が約4.4万台となっております、コロナ禍前が約2.4万台だったので、倍近い大きな伸びとなっているところでございます。

しまなみ海道は、ナショナルサイクリングロードの取組も含めて、様々な取組の結果、認知度はかなり上がっておりますけれども、特に滞在時間を延ばすということが課題であるかなと、さらに延ばしていくことですね。

滞在時間を延ばし、しまなみエリアへの観光消費を高めていくと、結果、地域経済に貢献していくためには、サイクリング プラス、食、文化、サイクリング以外のアクティビティといった、瀬戸内の多彩な魅力を国内外の観光客に十分に楽しんでもらう取組が必要である。「泊まる、食べる、楽しむ」を充実させていくことが重要と考えておりまして、そのために必要な宿泊施設やカフェ、体験型プログラム等の更なる整備、認知向上が重要であると考えております。

サイクリングも含めたエコシステムの全体設計を行い、しまなみエリアでの観光の更なる魅力向上を図り、瀬戸内ブランドを推進していくということが求められていると思う。

今年度は万博もありますし、瀬戸内国際芸術祭もございます。国内外から多くのお客様がいらっしゃるイベントがございますので、こういった機会を捉えて、本県としては、広島県観光連盟と一体となって、しまなみエリアの魅力、観光プロダクトの造成といったソフト面での魅力づくりを進めておりますし、宿泊施設の受入環境をより強化し、発信することで、年間を通して国内外からのさらなる誘客促進につなげていきたいと考えております。

また自転車については、我々、今、ロードバイクに加えて、マウンテンバイクの拠点作りを進めているところでございまして、この周辺のような、ゆるやかな山並みの中で、マウンテンバイクにも最高なところだと考えておりますので、コースの調査、人材育成に取り組んで、新しい誘客を進めていきたいと考えております。

しまなみ海道への誘客効果を両県全体に広げていくため、豊かな山々の魅力を体験できる新たなサイクルツーリズムの創出といった課題を含めて、インバウンドの誘客に向けての取組をしていかなければいけないと思いますが、そういった取組について、愛媛県と一緒に取り組むことができればと思っております。

加えて、せとうちDMOでは、観光ガイドの育成・充実のための研修を行っておりますし、宿泊施設の確保や維持に向けた計画の策定、また、本県においては、尾道の「旧・千光寺山荘」をリニューアルし、新たな宿泊施設を開発するといった取組をしていただいております。高付加価値旅行者、いわゆる富裕層ですけれども、消費単価の高い こういった皆さんを瀬戸内エリアに誘客していくという取組が進みつつあるということで、引き続き、せとうちDMOとも連携して、しまなみエリアでの「泊まる、食べる、楽しむ」の充実を図るということが必要だと思っておりますし、また、両県を含む瀬戸内地域の魅力を積極的に発信していくことで、滞在時間の延長や広域周遊の創出につなげていきたいと考えておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思っております。

それでは、中村知事お願いします。

中 村 知 事： 今日、場所の選定、準備等々を湯崎知事、広島県の皆さん、どうもありがとうございます。また、両県の経済界からも参加いただき、意見交換できることを大変有意義に思っております。

まず冒頭に御礼を言わなければいけないのですが、今年、今治地域で大規模な山林火災が発生いたしました。ご案内のとおり、東北、愛媛、岡山あるいは宮崎と、乾燥し、降雨が無く、強風が吹くという三条件が揃って、各地で大規模山林火災が発生いたしました。

当初、現場からは、自力で何とかするんじゃないかという連絡だったんですが、特に強風が飛び火に繋がって、あっという間に被害が広がるという現象が起りまして、当初は愛媛県内の消防のバックアップ、それから四国の防災ヘリのご協力が立ち上がったんですが、それでもどうにもならないということで、自衛隊からもヘリを派遣していただきました。

しかし、それでもどうにもならないということで、防災ヘリの航空部隊を含む緊急消防援助隊の出動要請をかけたところ、広島が中心になって、大勢の皆さんがバックアップ体制を敷き、今治に駆けつけていただきました。

1週間から10日ぐらい滞在していただいたんですが、私もその指揮部隊に行かせていただいたんですが、非常に的確な戦略のもとに山林火災に立ち向かっていただきましたので、本当にその力があって消火に持ち込めたのではなかろうかと思っておりますので、愛媛県を代表して本当に心からお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

さて、広域観光連携なんですけれども、愛媛県は本州ではないので、新幹線もありませんから、その点、色々な制限の中で考えていかなければならないのですが、そんな中、アジア各地では、松山空港との直行便を順調に拡大をしまして、ソウル便も小さいながらも週14便、プサン便が週3便、台北便も同様の状況、それから7月からは上海便が復活と、4つの路線が開設し、チャーターではなく、全部定期便として就航しましたので、順調にそれぞれ約8割の搭乗率で推移しています。

ただ、1つの決定的な弱点は、広島と違って、先ほど四国の独自性ということを上申したんですが、あくまでも直行便などはアジアが中心で、欧米豪、ここらあたりからの集客というのは非常に大きな課題でございます。

そのような中で、この会議でも連携をということで、取り上げさせていただきましたが、広島には大勢の欧米豪の方もいらっしゃって、そこから四国へという連携の中、しまなみ海道を活用した連携というものが、愛媛にとっては非常にありがたいので、ぜひご協力を、連携をということでお願いしてまいった経緯がありますので、ぜひサイクリングも含めて、いろんな連携を強化させていただけたらというふうに思っております。

そんな中、直接のアクセスは無いですが、宿泊予約サイトを運営する民間会社との連携や、それから滞在時間が長い傾向にある欧米豪の方に人気のある、うちは古民家がやたら多くて、空き家率がもう約20パーセントで、全国でも上位なんです。これを大いに有効活用しようということで、色々なリノベーションを行っています、個々の民間事業者が宿泊施設を開設して、それぞれが何とかやっていけそうなのという状況になっているという報告を受けていますので、ここに広島からのアクセスが加わると、さらなる拡大が見込めるんじゃないかと大いに期待をしているところでございます。

また、万博を契機に注目が集まっていますので、国際定期便だけではなく、スーパーヨットも大いに各地域に展開していきたいというふうに思っています。

それから、愛媛に広島から来ていただいたら、広島に戻るというルートも大事なんです、さらにそこから大分へという、こういう魅力も、長期滞在ならではのコンテンツとして紹介していくことが良いのではないかなというふうにも考えています。

そして、今日こちらの山なみまで初めて上がってきたのですが、ここまでだったら比較的斜路も緩やかで、素人でも来れそうだなと。ただここから先は分かりませんが、未知の世界なので。ただ非常に風景が豊かで良いコースだなと思いました。

湯崎知事からお話のあったマウンテンバイクについても、これは愛媛でも、eマウンテンバイク、これは乗ってみたのですが、今までとちょっと違うのは、ガタゴトしている岩場ではびびったら負けると。逆に踏み込んでスピードを出してこそ安定する。慣れることがちょっと大変だけれども、そこさえ身につけてしまえば、さらなる広がりがあるというのを痛感いたしました。ぜひ連携してその魅力を広めていくことができたというふうに思っています。

ただ一方で、愛媛も全体的なサイクリストの受入体制は進めているのですが、やっぱり増えれば増えるほど問題になってくるのが、マナーやルールの順守の問題だと思うので、ここはもう本当に特に国際大会ではそれを周知させる機会でもあろうかと思うので、ぜひ次の大会では、そのルールやマナーの浸透というのを一層強めていくことができた良いのではないかと思います。

最後に、数年間かかったのですが、ヨーロッパで毎年行われている世界最大級の自転車国際会議、通称がVelo-city、通常はEU全体で行っていますので、EU各国でおしまいなのですが、これまでの歴史の中で、1度だけアジアでの開催が実施されたところがあります。台湾で1度だけあったのですが、今回、やっぱりしまなみに行ってみたいねという声が多分一番大きかったと思うのですが、日本初開催、アジアでは2回目の愛媛開催が再来年に決定いたしました。これ4日間ぐらい自転車国際会議が行われまして、参加者はEUの場合だと1,500人ぐらいが、4日間でバイクパレードをやったり、そのあとエキスカッションをやったりという仕掛けになっているんですけれども、中身は、要は自転車を活用したまちづくり、ルールづくり、これを徹底的に議論する場なので、観光振興というよりは学術会議なんですけれども、非常に権威が高いので、ぜひ、日本国内の自治体にも大々的に呼びかけて、日本全体の自転車活用に結びつける良いきっかけになればと思っていますので、ぜひ連携してやらしていただけたらというふうに思っています。

以上であります。よろしくお願いいたします。

湯崎知事： はいありがとうございます。
それでは、経済界の両会頭から御発言ありましたら、よろしくお願いします。
では、高橋会頭よろしくお願いします。

高橋会頭： それでは経済界の立場から発言をさせていただきます。
人口減少社会を迎える中で、世界的な需要予測から見ても、地域経済の活性化には、観光振興が一番であると思って取り組んでおります。

先ほどの（中村）知事からのお話にもありましたが、県の取り組みによりまして、松山空港の海外定期航空路線、これが増便されまして、県内の観光地も韓国、台湾のインバウンドで本当に賑わっている状況でございまして、コロナ禍からの経済再生に貢献しているところでございます。

これも先ほど（中村）知事からありましたが、弱点としては、やはりアジア中心であること。やはり欧米系のインバウンドをいかに入れていくかということで、1人当たりの消費単価が多く、そして宿泊日数が長い欧米系のインバウンドを引っ張ってきたいと思えます。そのためにも、欧米での知名度が高く、来訪者が多い広島県をはじめ瀬戸内圏や中四国で連携して、サイクリングや瀬戸内の自然を生かしたインバウンド向けの魅力的な観光コンテンツを造成して、来客拡大、消費単価向上、宿泊日数長期化に取り組む必要があると思っております。

また商工会議所では、やまなみ街道、しまなみ海道が繋がった平成27年から、松江、尾道、今治、松山の4商工会議所で連携しまして、首都圏などで観光物産展を開催するほか、お手元にお配りしている「やまなみ、しまなみマップ」、こういったものを作成しました。英語バージョンもありまして、これから韓国語、中国語、こういったものも作りながら、広域連携、観光振興を図っていききたいと思っております。

このやまなみ、しまなみで繋がった松江商工会議所と、非常に良い縁ができて、この秋から放映が決まりました「ばけばけ」という小泉八雲と奥さんの物語であります、この縁をいただいて、先日、関西万博のアイランドのパビリオンで、在日アイランド商工会議所と松江・松山商工会議所の経済レセプションを行って、「しまなみ海道」等のPRを行いました。前日には、アイランドのマーティン首相の来日歓迎レセプションに私も招待されて行ってまいりました。

こういった「ばけばけ」の放映とか、大阪・関西万博での繋がりを活用しながら、欧米からの誘客を促進していくことが、観光振興に繋がっていくのではないかと考えております。

また愛媛県商工会議所連合会では、四国八十八箇所の世界遺産登録に取り組んでおりまして、世界ではやっぱり広島の知名度が高くて、先ほどの湯崎知事からの発言にもありましたけれども、海外からたくさんの方が来ると。それを何とかしまなみを通して四国へ、これから観光コンテンツを作って、広島に入ったら四国のどこかの空港から出ていくとか、その逆コースとか、こういった連携ができれば、将来的に良いなと考えております。

私からは以上でございます。

湯崎知事： はいありがとうございました。池田会頭よろしくお願いします。

池田会頭： 私は、パワーポイントのハードコピーをつけています。これで見ただけで大体分かると思います。

しまなみサイクリングですけれども、私、今年初めて湯崎知事に誘われまして、やってまいりまして、一応最年長者だったですけれど、何とか30キロ強ですね、eバイクのおかげをもちまして完走できたということで、自分が実際やってみて、爽快で良かったなど、実際にやってみないといけなかったんですけれど、やっとやりましたので、これからもっと多くの方に推奨したいと考えております。

ということで、因島サイクルツーリズム振興協議会というのは、因島商工会議所が2019年に発足させたもので、2,000名の来場者がある自転車神社祭りとか、そういったものをやっている次第でございます。

次のページが、やっぱりホテル、ハードも必要だと。特に欧米系のインバウンドの方に長期滞在してもらうためには高級なホテルも必要だろうということで、上の「LXR MIYAJIMA」というのは、ヒルトンのブランドでございまして、最上位ブランドが「ウォルドーフ・アストリア」「コンラッド」と、この「LXR」。実は手前味噌ですけど、私どもが宮島の対岸に5千数百坪の保養所を持っていたので、そこへ誘致しまして、ワシントンからオーナーが来たので、私と頭取で茶会を開きまして、すごく喜んでいただいて、そこで食事をしてもらいましたら、ここでホテルを作りたいと。ここは鳥居の反対側で、60室だけれどかなり高い長期滞在用の欧米系のホテルを作るということになっております。

その下の音戸の瀬戸ですけど、バンヤンツリーというタイのホテルグループを呼びまして、ここはギャリアという100室の中クラスのホテルと、ダーワというこちらの方が高いですけども、60室のホテルを、2棟建ててやっていこうということで、これも私どもの銀行が中心になってやっているものでございます。

その次の4ページは具体的な再整備の計画ですね。

5ページのところは、先ほど（湯崎）知事からもご紹介いただきましたが、旧千光寺山荘ですけど、これを尾道倶楽部としまして、瀬戸内ブランドコーポレーションが再生をさせていくわけでございます。

西山旅館といって、フジテレビのアナウンサーの西山喜久恵さんの実家の旅館の再生もすでに終わっておりまして、オープンしてもう何年にもなります。こちらは尾道の第二弾の再生ということでやっております。

その次は、ホテルばかりやっているんですけども、仙酔島のプロジェクト、これは星野リゾートが来まして、ここでホテルをやるということでやっております。

我々は気がつかなくても、海外の方は、瀬戸内をすごいすごいと言ってくれます。ホテルが無いじゃないかということで、我々銀行マンは、専門の会社を作りましてやっているわけでございます。そういった形で、地域がまずハードを整備していこうということでございます。

7ページは、広島電鉄が駅前大橋ルートを開設するというので、市内と4～5分近く（短縮に）なるのかな。それと、駅から（雨に）濡れずに電車にすぐ乗れるということで、これは8月3日に通常オープンして、8月6日に間にあわせるという形でやっております。既に撮り鉄の方とか、乗り鉄の方が、マニアがかなり来るだろうと考えております。

8ページは、瀬戸内海汽船が広島・呉～松山航路でリニアジェットを就航させるという形でやってるわけでございます。我々も協力しながら、松山ともっと早く繋いで、便利にしていこうとやっております。

9ページは、（広島）空港のレンタカーポートで、今まではレンタカー会社ごとに分かれていたのを1つの場所にまとめまして、英語版と中国語版を使えるナビなど、そういうのもやっておりまして、空港からの2次交通の整備をやっております。

その次のところは、神楽というのは広島伝統芸能で、外国人の方が来ると、どこかで神楽を見れないかとよく聞くんですけど、まずはエディオンピースウイングでやってみたと。既に県の施設で神楽をやっておりますけれども、これは週に1回なので、これをもっと少し増やしたいということも考えていますし、できたらホテルで飲食付きでやりたいんですけど、今そういうのをホテルといろいろ研究はしているというところでございます。今週はどこのホテル、来週はどこのホテルと3つか4つでやりまして、その興行主をどこにするのかという話をこれから考えていきます。

最後の11ページは、毎回言っていますが、海生都市圏ということで、山口なども含めて、修学旅行の大阪・東京の方は、1泊目がホテル、2泊目が民家、江田島であるとか、三次とか庄原などの中山間地の民家にも泊まっていただくという形でやっております。

一時は15,000人ぐらいだったですけども、コロナで少し減りまして、それでも今はかなり増えつつあります。ただ、受け入れ側がだんだん歳を取ってきますので、今、移住者を含めて、若い人にも、その地域のことが分からなくても受けてくれる方にはお願いして増やしていこうと、県内全域で進めております。

私からは以上でございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

これからのキーワード、提携の強化のために、先ほどもございましたけれども、欧米豪が1つのカギになるというところで、いかに広域連携で、お客さんに周遊していただくかということかと思えます。

池田会頭の資料にもご紹介がありましたが、新しい高速船もできますので、そういったものも、とても魅力の1つになるのではないかかと思うので、我々も広域周遊の中に組み込んでいければなと思えます。

ありがとうございます。

(2) 食のブランド化の推進について

湯崎知事： それでは続きまして、食のブランド化のテーマに移りたいと思います。

こちらについても私から発言をさせていただきたいと思えます。

まず広島県では、我々の県全体のブランドステートメントはどういうものかというのを、3年ほど前に議論しまして、「元気、おいしい、暮らしやすい」というのが広島のブランドステートメントとして良いのではないかということで取りまとめたところなのですが、その中に「おいしい」というのがございまして、広島県内には、今日おいでいただきました三良坂フロマージュであるとか、今日のかしわ餅もそうだが、非常にこだわりを持った生産者の商品や、地域それぞれの食文化といったものがございまして、我々自身、広島は「美味しさの宝庫」とも言っているところでございます。

広島のおいしいイメージの課題は、例えば福岡とかは何か美味しいというイメージがあるんですよね。金沢とかも美味しいイメージがある。「何？」って聞かれると、うっと詰まるところもあるが、ラーメンとかもあるが。なんとなく美味しいイメージというのは、広島の場合は、もみじ饅頭とか、お好み焼きとか、牡蠣みたいな個別の名前をあげる人が多いですけども、全体として美味しいというイメージに辿り着いていない。つまり、「もの」のイメージはあるけれども、「価値」のイメージが無いというところが課題になっていまして、「もの」のイメージから「価値」のイメージを創っていこうということで、この「おいしい」というのがブランドステートメントで重要だということで、今、「おいしい！広島」という新しいプロジェクトを始めたところであります。

「おいしい！広島」では、従来のお好み焼き、牡蠣、レモンのようなものに加えて、瀬戸内のさかなや、比婆牛、広島の酒とそういったものをペアリングしていくといった取組をしている。

食材はもちろんだが、それを調理する、料理する人も非常に重要で、若手料理人の発掘・育成にも取り組んでおりますし、料理人同士の交流・研鑽というのも実施しているところでございます。

今年度は、インバウンドが非常に増えているということもありますし、大阪・関西万博もあるということで、これを機に、広島の非常に多彩な食資産・食文化の認知を更に高めていこうということで、「おいしい！」イメージを引き上げる新しいプロモーションをスタートしました。「おいしいけえ、ひろしま」というプロモーションなんですが、吉川晃司さんと奥田民生さん、このお二人、昭和40年生まれの同級生、私も実は同じだが、お二人が今、「Ooochie Koochie」というコンビを組んで、新しい歌を出されたりとかして、

広島のプロモーションをしていただいているんですね。それで「Ooochie Koochie」の奥田さんと吉川さんをお願いして、この「おいしいけえ、ひろしま」のプロモーション展開をしています。

〔P Vの放映〕

こんな感じで展開しておりまして、主に首都圏で展開していますけれども、「ひろしまは美味しさの宝庫である」というブランドイメージを浸透させようということ、もちろん、これを観光に繋げていこうということをやっております。

前のテーマでもありましたが、しまなみエリアに訪問されるお客様の滞在時間を延ばしていくためには「泊まる、食べる、楽しむ」、サイクリングは楽しむなんですけれども、「食べる」というものの充実も非常に重要であると思っております、しまなみエリアの食のブランドの向上を図るため、せとうちDMOとも連携した食の魅力の磨き上げや発信に取り組む必要があると考えている。

愛媛県も同じように非常に美味しいものがたくさんあると思うが、愛媛県の美味しさのプロモーションや食ブランドについての取組を教えていただければと思っております。

私からは以上でございます。それでは中村知事お願いします。

中 村 知 事： 愛媛県は、例えば各地域で「これは」と思い浮かんでくるような郷土料理があるわけでは無いのですが、何でもかなくということ突き詰めて考えると、それだけ食材が豊富だったからに他ならない、山の幸あり、海の幸あり、里の幸あり。たしかに自分の子どもの頃も、「ちょっと魚を獲ってこまい」と言って、釣って夕食で食べたり、みかんは貰う物みたいな感じで育っていますから、恵まれていたんだろうなと。郷土料理が際立っているところは、たぶん逆転の発想で見ると、食材が豊富でないところに誕生しやすいと。限られた食材をどうやって工夫して美味しくして食べようかという知恵がそこに集まっているので、もう逆の発想でいいのかなというふうに関心しています。

ただ、その中で、P R効果として、豊富な食材からピックアップして磨きこんでいくというのがベースにあるのかなと。愛媛県の戦略のベースにあるのかなと思っています。そういう意味で愛媛県は、広島とは瀬戸内海で対岸にあるけれども、全然違うんですね。うちは牡蠣がそんなにあるわけでもないし、お好み焼きもそんなに大々的にあるわけでもない、柑橘でもレモンくらいは共通していて、あとはまたちょっと違ったような生産物が登場していますから、競合するところが少ないので、コラボしやすいかなとも思っています。

そのような中で、代表的なのが柑橘ですが、温州みかんという代表品種については、和歌山県が生産量第1位、2位・3位が静岡・愛媛。愛媛県が他と違うのは、何といっても中晩柑晩柑類という品種の豊富さで、現在市場投入しているのが大体40種類ぐらいあります。愛媛の場合、温州みかんの生産比率が55%、50%ちょっとぐらいですが、例えば和歌山だったらもう85%ぐらいが温州みかんだと。この多品種周年供給というのが愛媛の特色で、そこを新品種開発のてこ入れで築き上げてきた歴史があります。

現在、最高品種と言われているのは、ここにも出している「紅まどんな」が、12月に採れるが、これはもう最高品種。それから隣の「甘平」というのが2月ぐらいに採れる、紅まどんなに並ぶ高級品種。「紅まどんな」は、東京だと1個で1,800円ぐらいしますから、非常に高収益な品種になっています。

たまたま（県の）みかん研究所に行ったときに、「さすがにもう「紅まどんな」以上のものはできないよね」と言ったら、「必ず作ってみせます」という力強い答えが返ってきて、10年以上の月日をかけて登場したのが今年発売した「紅プリンセス」です。「紅まどんな」と「甘平」の子どもになります。採れる時期もずれて3月ごろです。

だから、12月、2月、3月と、高級品種がガリレー方式で出て行くということで、これはいいなと思ったので、「紅まどんな」はもともと「紅」という名前が付いていますが、「甘平」は「紅」が付いていないのですが、愛称として「紅」を付けちゃいました。新しいのが「紅プリンセス」ということで、「紅」「紅」「紅」にして「紅コレクション」と

いうシリーズ名を付けて、これをパッケージでPRしていくという戦略を今年からやり始めています。

それからもう1点は、まだ正式に決まっていなくて、発表も来週ぐらいかなと思っているのですが、取扱注意ですが。愛媛県は、そうは言っても代表的な郷土料理って何かなと言ったら、やっぱり「鯛めし」なんですね。今、日本全体で出回っている養殖鯛の約6割が愛媛産になります。県魚でもあるので、非常に主力な品種になっています。これを活用した郷土料理というのは、鯛めしとして伝わっているのですが、地域によって食べ方が違って、僕らが産まれ育った松山圏域や今治あたりは、鯛を炊き込んで、ほぐして、まぶして食べるという鯛めしなのですが、宇和島を中心に南の方へ行くと、ご飯の上に お刺身の鯛をのせて、具をのせて、生卵の黄身をのせて、それぞれの独自で工夫したタレをかけて食べるという、宇和島風鯛めしというのが、あちらで言う鯛めしになりますから、全然違うんですね。ぽっかり空いているのが東のエリアなんです。新居浜、西条、四国中央。ここでは、「これは」という食べ物が無かったので、そこを何とかしたいなと思って、そんなときに西条市のレストランの方が開発した、鯛を使ったイタリア料理が全国コンクールでグランプリを獲ったのです。会社の会長さんが報告に来たときに、1口食べて「これや」と思ったのです。すぐその場で、「会長、これ県に任せて欲しい。レシピの公開に踏み切って欲しい。」と（言いましたら）、会長さんは「いいよ」と言ってくれて、そんな大丈夫なのかなと思ったら、さすがにグランプリになると人が殺到するので、しばらくはグランプリ人気を享受していただいて、時期を見ようと思ったんですよね。その後連絡があって、前向きな言葉をいただいたので、今、県の方でコーディネートしています。それで、宇和島は南ですから南予風、僕らが育った炊き込み型は中予風、今回このレシピで登場するのは東予風と、東中南予の鯛めしセットというのを作ろうかなと。これは僕が勝手に寝ながら考えたので、不採用になるかもしれないけれども、南予は刺身なので活魚で「活き鯛めし」、我々が育った中予は炊き込み型なので「炊き鯛めし」、今度登場するのは、こんがりバターで両面を焼いて、ご飯やバターライスの上にのせてイタリアンソースをかける「焼き鯛めし」、「焼き、炊き、活き」で語呂がいいと思うので、これはできないか、評判が悪かったら却下するが、勝手に作ったので、ちょっと発表してみようかなというふうに（思いました）。取扱注意をお願いします。そんなことを今考えています。

食材が豊富であるがゆえの悩みもありましたが、だんだん見えてきたかなというので、ちょうど広島とは全然食文化が違うので、本当に今から紹介し合えたらいいかなと思います。以上です。

湯 崎 知 事： ありがとうございます。メディアの皆様、解禁付ということで、（中村）知事の発表までお待ちいただければと思います。

鯛の3つがありました。また他の3つが出てきそうな気がします。
引き続き経済界の皆様から。池田会頭をお願いします。

池 田 会 頭： まず、食のブランド化で我々が何かやっているかということですが、先ほど言いました体験型修学旅行で、江田島へ行く生徒達に、オリーブの栽培から収穫などを経験してもらおうようにして、オリーブを自分たちで絞っていくというのを修学旅行生にやってもらっています。
あとは、スライドの12ページ、13ページに出っていますが、これ（ひろしまフードフェスティバル）をずっとやってきているのですが、これ（ひろしまフードフェスティバル）は2日間で22万人ぐらい人が集まるわけですね。今年もやっていこうと思っております。出展ブースが大体250社ぐらい。今年、先ほど（湯崎）知事からありましたOK！広島、これも県と一緒にやっているイベントですので、何とかOK！広島をのせて、フードフェスティバルと、冬の広島城オイスターフェスティバルは牡蠣やお好み焼きをやるが、今年はとにかくOK！広島を、この民間の2つの大きなイベントと組み合わせてやっていきたいと考えています。以上でございます。

高橋会頭： それでは私の方から発言させていただきます。

瀬戸内をはじめとした食をブランド化する事業を松山商工会議所で行っておりまして、お手元に、松山ブランド新製品コンテストというカタログがありますが、今年で21回目ということで、受賞した製品を国内外の展示会や販売会に出展して、販路拡大の支援を行っております。

昨年の20回目で、この表紙にもありますけれども、愛媛県産のいわしと国産の鰯を使った出汁に山椒を加えたもので、水谷千恵子とのコラボ商品、これが知事賞をとりまして、松山市長賞は NIKITASU のお酒、これは道後温泉本館の耐震改修が終わりまして、それを記念したデザインで、愛媛県産の酒米を30%まで磨き醸したのですが、日本酒アワード2025で、プレミアム大吟醸部門の金賞を受賞しました。こういった商品を発掘して、色々な展示会に出して応援している。昨年は韓国のピョンテク市で、松山市と一緒に経済交流を行ってきまして、先ほどの受賞商品のPRもしてまいりました。私からは以上でございます。

湯崎知事： どうもありがとうございました。

それでは、時間も押しておりますので、次の議題に移りたいと思います。

(3) 官民共創によるスタートアップ支援について

湯崎知事： 次の議題が官民共創によるスタートアップ支援でございまして、こちらについては中村知事からご説明をお願いします。

中村知事： まず、デジタルの関連については、行政のDXも、それから、県民生活のDXも、それから企業の成長に関わる産業のDXも、それぞれ進めていかなければならないのですが、色々なことをやっている中で、一番の課題は人材だなということで、愛媛県内の4つの大学の学長に、それぞれに新しい情報系のデジタル人材を育てる学部を作ってはどうかという相談をしたところ、幸いなことに、すべての大学がやりましょうということで、去年あたりから続々と新学科での人材育成が始まっています。

その後、例えば、デジタルや経営学を詰め込み型で、若い人たちに伝授する研修の実施。これ70日ぐらい閉じ込め型の研修ですけども、そのようなことをやったり、民間企業とタイアップしてスタートアップのチャレンジャー募集ということで、審査にパスすると、金融機関のバックアップや行政のバックアップ等伴走支援をするという制度、それから、全国から募集している、愛媛県をフィールドにした最新のIT技術を活用した実装実験でのチャレンジ、これが1,000数百社から応募があって、採用したのが100社ぐらいですけども、こういったことをやったり、色々なことやってきました。

そこで、今日のスタートアップの官民共創ですが、来年の3月に、県庁の1つの別館の建て替え工事をやっていますが、どうせ建てるんだったら、他でやったことのないことにチャレンジしようということで、県庁の1階2階を完全官民共創空間にします。しかも、全面開放して、ここで課題解決、スタートアップの議論、あるいはその出会い、こういったことを日常的に実現できる空間として開放するという準備を進めているところです。成功するか失敗するか、やってみないとわかりません。ただ、やる価値はあると、自分自身判断いたしましたので、今その下準備を始めています。民間でやっている施設もありますので、そういうところに県庁若手職員を派遣して、来年の3月までに事前準備を整えて、来年4月以降にスタートしていきたいと思いますので、これもまたある意味では新たなスタートみたいなもので、本当にどういう結果を生むか、全く未知の世界ですけども、大いにチャレンジをしていきたいというふうに思います。

以上です。

湯崎知事： ありがとうございます。

本県もスタートアップを非常に重視しているところでございまして、様々な取組を行っています。

1つは「ひろしまサンドボックス」という、これもう6～7年くらい継続してやっています、先ほどの中村知事からの発言にもあったような事業ですが、デジタル技術などの新しい技術を活用して、新しい何か、商品とか製品・サービスを創っていく、その実証などを行う事業です。これを「ひろしまサンドボックス」と呼んでいます。

これまでも、例えば保育士の見守り業務をIT化するとか、道路管理のデジタル化など、色々なことが出てきておりますが、規制緩和であるとか、市町との協業支援といったようなことも行っている。

その流れの中で、特にサンドボックスでAIに特化したプログラムとして、「ひろしまAIサンドボックス」を去年立ち上げ、県内企業の課題とAI事業者をマッチングして、両者が協業して、新しいAIソリューションを創っていこうといったようなことをやっています。

今般、その事業選定がございまして20件ほど採択したが、中には、

オタフクソースとの、実はオタフクソースはソースだけではなくて、すごく多くの製品・品目がありまして、色々な所で生産していて、その在庫管理が結構大変だという話があり、従来だと何人かのグループで毎日4時間くらいかけて、どこからどこに在庫を移動させるかみたいなことをやっていたのですが、それをAIで瞬時に終わらせるみたいなものに取り組んだりとか、

「広島ドラゴンフライズ」というバスケットボールチームがありますが、ここと協業して、AIで選手のアバターを作ってファンと交流するという取組も進んでいる。

もう1つは、「イノベーション・ハブ・ひろしま Camps」という、今度、中村知事が県庁に作られるということですが、我々は少し県庁から離れたところで、アンデルセン本店の近くに作っていますが、（愛媛県が）県庁の中に作るということは思い切った取組で、本当にびっくりしているわけですが、これまで8年間運営しているが、64,000人の方に使っていて、4,000件の相談があって、マッチングが400件実現しているということで、会員登録してもらおうが、今3,300人ということになっています。これは地道に取り組む必要があると考えています。

それから、もう1つ行っているのが、「「ひろしまユニコーン10」プロジェクト」というもので、端的にいうと、ユニコーンを10年で10社創ろうというプロジェクトであります。

これまで、成長段階に応じて色々な支援をしてきており、去年だと、例えばシンガポールを中心とした東南アジアへの展開だとかを40社くらいに支援しているが、様々な支援の中で15社くらいが約40億円の資金調達に成功していて、その他色々な大企業との連携とか、そういったことにも繋がっています。

今年は、CFOが弱い企業が多いので、CFOをマッチングしていくといった取組を行っています。

今般、愛媛県もですが、内閣府の「第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市」に選ばれて、これを1つの踏み台にして、更にスタートアップの展開を図りたいと考えています。

引き続き、瀬戸内エリアということで、情報交換をしながら、あるいはイベントと一緒に出展をしたりとか、そういったことも考えられると思いますので、連携してスタートアップの強化を図っていければと思っております。

それでは経済界のお二人からお話がありましたら。では、高橋会頭お願いします。

高橋会頭： 先ほど（中村）知事からも話がありましたが、令和8年度に、愛媛県が県庁新庁舎の中に官民共創拠点を設置していただけるということで、非常にありがたく思っております。

商工会議所といたしましても、行政や他の支援機関と連携して、創業支援を積極的に行っていきたいというのが1点でございまして、また県との連携で、本年3月に設立された、オール愛媛でスタートアップの創出支援を行う「愛媛グローバル・フロンティア・コンソーシアム」に、県の商工会議所連合会として参画しているところでございます。

もう1つは、新たな創業者を掘り起こすだけではなく、商工会議所の役割としては、やはり事業承継も重要だと思っております。新たな承継者が、その人の観点で事業を発展させていくというような取り組みが非常に必要だと思います。そういった事業承継を推進するため、商工会議所の相談窓口でお聞きしながら、ビジネスマッチングなどの支援を行っております。

最近の成功した事例では、地方の古い料亭を第三者承継して、新たな飲食店として開業したという例も出ております。

私からは以上でございます。

湯崎知事： ありがとうございます。では池田会頭をお願いします。

池田会頭： 皆さんおっしゃったように、会議所としては我々は伴走型で、とにかく相談を受けるという形でやっております。

例えば創業支援、会員になっていただいたら、そういう形で痒いところに手が届くようになっています。

私は銀行ですが、銀行はヒト・モノ・カネを供給するという仕事ですので、その事例としてシートを作っております。

簡単に言いますと、1件目は「TSUNAGU 広島」といいまして、県内の事業者と全国の有望なスタートアップを繋ぐということで、去年から始めました。126社のスタートアップが出席して、3,400名が来場されたということで、これは今年もやっていきたいと思っております。

あとは、県内の大学ベンチャーですが、今年は、今までのベンチャー助成金に加えまして、広島大学とのベンチャー支援ファンドにカネを我々も出すということで、ファンドを作ってやっていこうとしております。

その次のページは助成金ですけれども、2002年から続けておりまして、20年以上続けております。累計432社助成しています。その中で、湯崎知事からもありましたように、過年度の受賞者から、ユニコーン10とか、Jスタートアップウエスト等の行政による支援プログラムに採択されるものも出てきたということでございます。

最後はコワーキングスペース。これは私どものビルの空いているところで、イノベーションの創出拠点として作っているところで、他の経済界とも連携しながらやっております。

ここに出ておりませんが、もう1つやっていることが東京広島県人会ですけれども、広島スタートアップの人を、宿泊料等を県人会がお金を出して呼んであげようという、東京のファンドに紹介するというのを、今2回やりまして、広島から3社か4社を呼んでプレゼンテーションして、そこで気に入れば、その時には東京のファンドとか、証券の方たちにも参加していただくという形で、呼んでくることと、広島企業に行ってもらうことと、双方やっているということでございます。以上でございます。

湯崎知事： ありがとうございます。両県、様々な取り組みがあると思います。

今、日本全体が非常に難しいところに差ししかかっているところだと思いますけれども、特に最近の政治の動きを見ると、若い人たちの色々な変化、変化を求める若者というのが、非常にマグマが溜まっていて、それが色々な選挙の結果に繋がっているような感じがしますけれども、その若者に応えていくためには、スタートアップはとても重要だと思いますので、これは両県のみならず、全国知事会でも取り組んでいく必要があると思いますが、支援を賜りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それではおかげさまで、何と終了予定時刻10秒前に大体終わることができましたので、進行を事務局に返したいと思います。

内藤審議官： ありがとうございます。本日の議事は以上でございます。

最後に閉会にあたりまして、中村愛媛県知事からごあいさつをいただきます。

開会挨拶

中村知事： 今日は貴重な時間を作っていただきありがとうございます。

なかなかこういう機会でないと、三良坂まで来るということが無かったですけれども、例えば、話には聞いていた、やまなみ街道がどういうところなのかという体験もできましたし、それから、先ほど、本当に失礼な事を言ってしまったんですけど、何の下準備もせずに来て、チーズの工場に行って、社長さんに、「日本のチーズづくりの中で、世界に通用するような人材が育っているんですか」と聞いたら、もうその方がそのものだということで、大変失礼なことを言ってしまいました。くれぐれもお詫びをお伝えしていただきたいと思います。

また、本当にこの辺りの中山間とまでは言えないですけども、地域づくり、同じような課題でチャレンジをしているんだなあということも感じましたし、また昼食やコーヒーを飲みながら、湯崎知事と共通の課題である、東京への財源偏重の問題、それからローカル鉄道のあり方、これに対して地域がどういう声を上げていくべきなのかについて意見交換できましたし、そして会議では、大きな主要課題についての連携という観点からの議論を進めることができたのかなと思います。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

どうもありがとうございました。

閉会

内藤審議官： どうもありがとうございました。

それではこれをもって「令和7年度広島・愛媛交流会議」を終了いたします。

本日はご協力いただきましてありがとうございました。

記者会見

中国新聞：今日は様々な意見が交わされたと思うが、全体としての受け止めは。

湯崎知事：最後、中村知事がまとめてくださったとおりでと思いますが、各地域の実情を相互に知ることができるということがあって、今回は広島が開催地なので、広島に来ていただいて、チーズや中山間地域の実情などもご覧いただいた上で、色々な意見交換や、この場での会議の議題もそうですが、スタートアップ支援とか観光連携とか、食の魅力向上という話もありますが、他にも鉄道の話とか、財源の話とか、色々な話をやりとりすることができる、そういったことで共通認識を作っていく、連携を進めていくといったことが非常に有意義だと思いますし、こういう会議の中から、これまでも色々なことが生まれていますので、両県の取組をこういったことを通じて、更に展開を図っていければと思っています。

中村知事：それぞれ隣県との会議は我々もありますし、広島もあると思いますけれども、これほど分かりやすく具体的な連携が会議から生まれたというケースはあまり見られないと思います。これは、しまなみ海道が両県の共有する財産ということもあると思いますが、それぞれが協力して磨き上げた結果が今日に繋がったということで、会議の意義がこれほど明確に出ているケースは無いと痛感しているところです。

湯崎知事からもお話がありましたが、これから本当に難しい時代に入ってくるのではないかなと。特に国政の混乱は、しばらく、6年どころか、3年後の選挙のことを考えると9年は混乱が続くのかなと。その中で地方はよりしっかりと対応をしなければ、本当に未来が見えてこない時代に入っているの、本当に気持ちのあるところと連携していく、あるいは意見交換していくということが重要になってくると改めて感じました。

愛媛新聞：今回まで30年間意見交換されているということですが、次の数十年で(長期的に見て)重要なテーマというのはどうお考えでしょうか。

湯崎知事：地域としては、新しい経済のエンジンを作っていくということが非常に重要だと思っている。若い人の仕事や所得を向上していくということが重要で、例えばそのための共通の取組というのが観光で連携することだと思います。やはり競争が非常に激しいものがありますが、世界全体を見渡せば、従来発展途上国と言われていたような国々の所得が上がって、そういったところの富裕層も増えていますし、一般の方の旅行も増えています。そういったところをしっかりと取っていくということが重要だと思いますし、それだけではなく、今日はスタートアップが議題になっていましたが、若い人が「面白い」「これやりたい」というふうに思ってもらえるような仕事を創っていくことが、地方創生と言われていますが、重要だと思っています。

一方で、人口がどんどん減っていく中で、鉄道だとか、医療だとか、教育だとか、そういうインフラ、ハードもあるソフトもあるが、それをいかに維持していくかということも非常に重要なテーマで、こういったところは我々が共通して、両県だけではなくて、日本全国の課題でもあります。連携して、10年、20年、30年後はどうなっているかは分からないが、将来に向けて取り組んでいかなければいけないと思っています。

中村知事：今起こっている社会の変動があまりにも大きいので、時代の変化が更に大きくなってくると思う。

その中で、IT技術の進化はめざましいものがあるので、これをどの分野でどう活用していくのか、自らが考えるだけでは良い発想が浮かばないので、他県との意見交換を通じて、新たなヒントが生まれる可能性もあると思います。

それから、県内で終結するのではなくて、より広域的な取組によって、例えば、防災、災害対応などは当然カバーできていくので、広域連携とIT技術を駆使して、新たな芽が色々な分野で出てくるのかなと期待している。

もう1つの大きな変動要因は人口減少。これにどう立ち向かっていくのか、特に地方は深刻ですから、そのためには、共通課題である鉄道や税財源などに対して、みんなでスクラムを組んで国に対して色々なアクションを起こしていかなければいけないと思っている

が、先ほど申したように、参議院が非常に混沌としているので、これまでと同様の国への働きかけでは通用しなくなっている。だから、各政党がどんな主張をしているのか、1番恐れているのは、多くの新人が国会議員になったが、どの発言を聞いても、地方の現場をほとんど知らない方が今回大量に当選されているのではないかなど。また、新しい政党に地方政策に関わるような文言があまり見られないと。このあたりをどうカバーしていくのかということを地方の行政が力をあわせてアクションを起こしていく必要があると思っています。そこをきちんとやらないと次の10年、20年は語れないと思います。

愛媛新聞： 先ほど湯崎知事が、若い人に応えるためのスタートアップ支援に力を入れる必要があるとおっしゃいましたが、双方でイベントの連携などもおっしゃっていたと思いますが、中村知事はそういった連携はやっても良いと思われていますか。

中村知事： 全然やっていきたい。

湯崎知事とはちょうど同じ時期に知事になって、最初にやったことが「しまのわ」。そういった経験をしてきているので、しまなみを活用した様々な展開というのは、すぐに協力体制が敷けるのではないかなど。今、それがサイクリングに繋がっていますし、それだけにとどまることなく、そういう縁で結ばれたものを更に進化させていったらいいのではないかと思います。

愛媛新聞： インバウンド誘致の中で、広島から欧米豪の長期滞在旅行者を誘致していくことを考えられていると思うが、具体的に何（の交通手段）で来てもらおうとしているのか、また愛媛県としての支援は何か考えているのか。

中村知事： 愛媛だと、例えば成田の直行便が飛んでいますから、飛行機でダイレクトにということもあるが、知名度で言ったら、圧倒的に広島の海外での知名度が高く観光客も圧倒的に多いことから、直接愛媛県へと言ってもなかなか難しい。アジアは直行便でカバーできますが。そうなってくると、せっかく広島まで来てくれているので、ぜひもう1泊（を愛媛で）ということで連携させていただけたらと思っています。そのためには、我々が、ちょっと足を伸ばしてみようかというような受入体制、魅力づくり、こういったことに努力をしていく必要があると思いますので、旅行プランの（交通）アクセスの民間企業とのタイアップとか、こういったことを側面的に応援するというのが当面の取組です。